

移住した皆さんに
インタビュー

ようこそ

小野町

田舎暮らしを成功させるには、自分がどのような生活をしたいのか、目的意識をしっかりと持つことが大切だというお話を移住した皆さんからよく聞きます。

シリーズ第10回では、「キャンプ場を開きたい」という夢をかなえるために小野町へ移住したご夫妻をご紹介します。

◆いつ小野町へ移住しましたか？

平成7年に東京から移住しました。

◆なぜ移住しようと思いましたか？

サラリーマンでしたが、休日は家族でスキーやキャンプをして、アウトドアを楽しんでいました。40歳になる前に、自然の中で仕事ができるキャンプ場の経営がしたいと考えるようになりました。

◆どのように移住先を決めましたか？

キャンプ場を開くのに適した土地を探して、いろいろな地域を見てまわりました。雑誌で小野町が紹介されており、町を訪れました。紹介された浮金の雑木林が自然の地形を活かしてキャンプ場を作りたいという自分の理想にぴったりでした。当時、磐越自動車道が開通間近で、交通の便も良くなることが期待できたこと、冬の積雪量もさほど多くないことから小野町に決めました。



新堂哲茂さん、真由美さんご夫妻
(谷津作行政区)

手作りのアスレチックは、子どもたちが喜びそうな仕掛けがいっぱいです。キャンプ場内にはご夫妻が心をこめて作った施設やオブジェがたくさんありました。



◆新しい暮らしに、とまどいはありませんでしたか？

「キャンプ場を開く」という目的があったので、特にとまどいはありませんでした。家族も反対することなく協力してくれました。近所の人に「キャンプ場を開くのでぜひ来てください」とお話ししたら、実際にキャンプ場まで足を運んでくれました。野菜を持ってきてくれたり、キャンプ場にきのこが生えているのを見つけて、「食べるとおいしいんだよ」と教えてくれたりしました。

◆小野町の魅力は何ですか？

季節の移り変わりを肌で感じるができることだと思います。冬の寒さが厳しい分だけ、春の喜びも大きなものとなります。移住してから何年もたちますが、鳥を見つけたり、山野草が咲いていたり、毎日新しい発見があり、日々喜びを感じています。

お忙しい中、インタビューにご協力いただき、ありがとうございました。